

33th

少年の主張三重県大会

中学生のメッセージ 2011

発表作品集

- 平成 23 年 8 月 28 日 (日)
- 場所：アドバンスコープ ADS ホール



財団法人三重子どもわかもの育成財団

はじめに

昭和五十四年の国際児童年を記念して始めた中学生のメッセージ（少年の主張三重県大会）は、多くの方々に支えられ、本年度で第三十三回目を迎えました。

この大会は、多感な時期にある中学生の少年少女たちが、未来への夢や希望、あるいは日常生活の中での様々な出会いや体験を通じて感じた思いなどを発表することにより、青少年が自分の生き方や社会との関わりを考え、また、青少年に対する県民の理解や関心を深めることを目的として実施しています。

本年度は、県内六十一中学校から九、五七〇名の応募があり、その中から、学校審査、中央審査等を経て、十四名を選考し、本大会を八月二十八日（日）に名張市のアドバンスコープA D Sホールで開催いたしました。

いずれの発表も中学生らしい純粹な考えや思いを率直に表現し、会場内の同世代の中学生をはじめ、多くの人に共感と感動を与えました。また、本大会の最優秀受賞者の王皞吉わんはおじさんは、県代表者としては六年ぶりに「少年の主張全国大会」に出場し、独立行政法人国立青少年教育振興機構奨励賞を受賞されました。

この冊子は、三重県大会で発表された十四名の皆さんの発表作品を掲載したものです。そして、十四名の発表作品とともに「少年の主張全国大会」わたしの主張2011」で内閣総理大臣賞に輝いた福島県いわき市の瓜生健悟うりゆうけんさんの発表作品「震災を乗り越えて」を掲載いたしました。

この冊子を一人でも多くの皆様に読んでいただき、青少年育成関係者をはじめ、県民の皆様方が、今日の中学生が何を考え、何を訴えたいのか、将来の夢をどのように考えているのかなどを理解し、今後の青少年の健全育成活動の参考にしていただければ幸いです。

最後になりましたが、この県大会を開催するに当たって、開催地区の名張市青少年育成市民会議・伊賀市青少年育成市民連絡会議の皆様をはじめ審査委員、中学校、各地区の関係機関等、多くの皆様方にお力添えをいただきました。特に名張中学校・赤目中学校・桔梗が丘中学校・北中学校・南中学校の皆様方には、司会・受付・誘導等の運営協力から実践発表の演奏までのすべてをお引き受けいただき、大会を盛りあげていただきました。ここに改めて心よりお礼を申しあげます。そして、この活動が、今後も広く三重県内に浸透し、心豊かな中学生をはじめとした青少年が育つことを祈念いたします。

平成二十四年一月

財団法人三重こどもわかもの育成財団

理事長 竹林 武一

目次

●はじめに

財団法人三重子どもわかもの育成財団 理事長 竹林 武一……………1

●中学生のメッセージ2011（第三十三回少年の主張三重県大会）発表作品

◆最優秀賞 少年の主張全国大会くわたしの主張2011 奨励賞

感謝

鈴鹿市立創徳中学校

三年 王 わん 皞吉 はおい……………4

◆優秀賞

陽光苑で学んだ事

四日市市立大池中学校

二年 宇佐美 うさみ 友紀 ゆき……………6

「頑張れ」という言葉

伊勢市立沼木中学校

三年 羽根 はね 諒悟 りょうご……………8

スタート

四日市市立富田中学校

三年 佐藤 さとう 亜美 あみ……………10

◆優良賞

私にとっての人権学習

伊賀市立崇広中学校

三年 吉本 よしもと ゆかり……………12

Let's volunteer

セントヨゼフ女子学園中学校

三年 早川 はやかわ 梓恩 しおん……………14

「私の決心」

松阪市立飯高東中学校

三年 石上 いしがみ 朝香 あさか……………16

姉に教えてもらったこと

紀北町立三船中学校

三年 工門 くもん 万佑子 まゆこ……………18

明るい理容界の未来を目指して

亀山市立関中学校

三年 森元 もりもと 希 のぞみ……………20

神様からの試練	名張市立南中学校	三年	塩田	桃葉	22
チャットの危険と崩壊と再生	鈴鹿市立鈴峰中学校	二年	村田	知樹	24
改正臓器移植法について	鈴鹿中学校	三年	奥山	雄貴	26
今亡き父へ 父の死から想うこと	名張市立北中学校	二年	高尾	美智子	28
ことばが社会を明るくする	伊賀市立柘植中学校	三年	中西	温美	30

●地域優秀賞一覧・学校奨励賞一覧	32
------------------	----

●講評 (全体講評・最優秀賞講評)

審査委員長 三重県教育委員会小中学校教育室 室長 西口 晶子	33
--------------------------------	----

●実施要項	36
-------	----

●審査基準・審査委員一覧	38
--------------	----

●応募数・審査経過	39
-----------	----

●大会写真	40
-------	----

●「少年の主張全国大会くわたしの主張2011」 内閣総理大臣賞

震災を乗り越えて	福島県いわき市立勿来第二中学校	三年	瓜生	健悟	42
----------	-----------------	----	----	----	----

●協賛企業・団体紹介	44
------------	----

※大会発表者の作品は、誤字・脱字以外は原文のまま掲載しました。

*** 最優秀賞 ***

少年の主張全国大会くわたしの主張2011く奨励賞

感謝



鈴鹿市立創徳中学校

三年

王^{わん}

皞^は

吉^じ

「感謝」の気持ちを忘れてはいけない。

母はいつも私にこう言います。

私は六年前、父の仕事の都合で中国から来ました。ひらがなも書けない、日本語もわからない私は、鈴鹿市内の学校に転入しました。小学三年生の時でした。日本語が話せない私は、みんなとコミュニケーションがうまくとれないから、当分友達はできないかもしれないなと思います。しかし、最初の日からたくさんの方が笑顔で声をかけてくれました。私も自然と笑顔になり、不安がだんだん消えていきました。そして、日本語も少しずつ、わかるようになり、友達も増えていきました。思い返すと、私のそばには、いつも誰か

がいてくれました。小学校での四年間はあっという間に過ぎ、中学校へ入学する日がやってきました。自分のことを知らない人がたくさんいる新しい環境で、うまくやっていけるかとても不安でした。その不安の中にあつたのは、国籍のことも含まれています。それまで国籍のことで、いやな思いをしたことがないわけはありません。その時は、悔しさと涙があふれました。でも、そんな不安をよそに中学入学後も、今までと変わらず、新しい友達がたくさんできました。悔しさと涙にあふれたあの時のように、私となりには誰かがいてくれるのです。「私たちが皞吉のことを守る。一人じゃないから。」と勇気をくれます。心の中が温かさに包まれて、また涙があふれました。私は、自分のことを受け入れてくれた、信頼し合える仲間に出会えて、とても幸せです。

しかし、みんなとこの先もずっと一緒というわけにはいきません。近い将来、半年後は、それぞれ違う道を進むでしょう。自ら考えて選んだ世界で、新しいスタートをきらなければなりません。そんな新しい環境では、今までの私を知っている人は誰もいないかもしれません。大学、社会と進んでいく中で、日本にいる限り、いくどとなくぶつかる壁があるでしょう。みんなが子供だった小学三年生の時とは違い、大人になれば、それぞれが、自分の考えをしっかりと持っているはずです。私が中国人であることで先入観や偏見で見つめる人がいるかもしれません。今までに経験したことのないような

壁が待っているかもしれませんが、でも今は不安がないのです。今日まで、私を支えてくれた人からの、強さ、明るさ、笑顔を忘れなければ、信頼し合える仲間がきつとできると思っています。私自身を見てくれる人がいると信じています。

私は日本に来て、わかったことがたくさんあります。人は一人では生きていけないということです。日本語がわからなかった私に話しかけてくれた人、困っている時にいつも助けてくださった先生方、どんな時も温かく見守ってくれた家族。みんなに支えられて、今の私がここにいます。笑顔で過せる日々があります。そしてもうひとつ、常に感謝の気持ちを忘れないことです。友達がいて当たり前、そんな考え方をしていた私でした。でも日本に来ていろんなものを失いました。その中で不安に押しつぶされそうになった私に、かけてくれた言葉がどれほど、勇気や支えになったことでしょうか。今の自分があるのは、やはり周りの人のおかげです。人は集団の中で存在しているからこそ、自分らしさがあるのだと思います。私が私らしくいられるように支えてくれる人に感謝する、その気持ちを忘れずにいることが、人としての強さだと思います。みなさんの周りにも、自分を支えてくれる人がたくさんいると思います。私のように気づいている人も多いでしょう。その人たちに対する感謝の気持ちを忘れずに、そして当たり前だと思わずに大切にしていきたいでしょう。

今、母の言葉が、母の思いがよくわかります。だから最後に伝えたいことばは、私を支えてくれている、友達、先生方、家族に「ありがとう」です。そして、最後に、会場にいる母に、「シェイシェイママ、ママ。」



- 部活動や学校外活動
陸上部・生徒会
- 好きな科目
英語・国語
- 好きなことや好きなもの
音楽を聴く・読書
- 将来の夢
海外へ留学

** 優秀賞 **

陽光苑で学んだ事



四日市市立大池中学校

二年 宇佐美 友紀

私の中学校では、一年生の総合の時間に事業所訪問というのがあります。その学習で、私は陽光苑という介護施設に行きました。なぜ、介護系の施設を選んだのかというと、人を介護するというのはどのようなことなのかを知りたいと思ったからです。

私が陽光苑に行き、介護の様子を実際に見学して、気づいたことが三つあります。

その一つ目は、利用者の方々に対する気配りです。例えば、冬の施設内には天井に何枚か湿ったタオルがかけられています。これは乾燥して風邪をひかないように、部屋の湿度を保つための工夫なんだそうです。また、写真のように利用者の方々の安全を考えた工夫

もしています。実際、職員さんの態度からも、利用者さんのことを常に考えている様子がわかりました。常に利用者さんのことを考えているので、仕事中は気の休まることがないかもしれません。私は、そんな風に誰かのために気配りをする姿勢を見習いたいと思いました。

二つ目は利用者の方々への接し方です。職員の皆さんは、利用者の方々と話す時に視線を合わせるために腰を下ろします。他にも、笑顔で明るくはきはきとした口調で話したり、聞き取りやすくするために、単語を強調して少し大きめの声で話したりもしました。私はこうした接し方が利用者の方々への心を開いていくのではないかと思いました。見学の途中で私たちが挨拶をしても、利用者の方々には挨拶を返してはくれませんでした。このことから、普段から常に利用者の方々困らないように考えて接している職員さんは、信頼されていることがわかりました。介護にはコミュニケーションが重要です。そして、そのコミュニケーションをとるためには利用者の方々との信頼関係を築くことが大切なのだと感じました。

三つ目は、施設の雰囲気明るくということ。 「陽光苑」という施設の名前にぴったりな太陽の光のように暖かく、優しい感じがしました。他にも施設内にかわいい飾りがあったり、外には銅像があったりもしました。私は「介護施設」と聞くと少し暗い雰囲気かと思っていました。けれど、そんな事はなく、陽気で楽しい利用

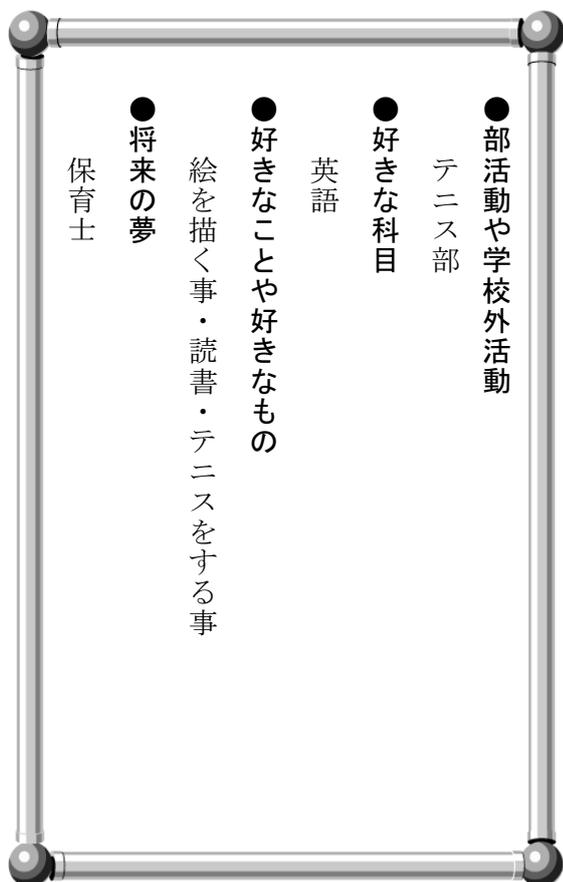
者の方がいたり、常に笑顔の職員さんがいたりして、イメージと違っていました。陽光苑のこうした明るい雰囲気は、職員さんが利用者の方々に真心を込めて誠実に話しかけていたり、施設の環境への気配りをする努力の証なんだと思います。

これらを通して人を介護する事について自分なりに考えてみました。介護というのはただ単に人を介助するだけの仕事ではないと思います。職員さんと利用者さんの間に信頼関係があつてこそ「介護」と言えるのではないのでしょうか。見学していたときに職員さんが「その人その人に合ったオンリーワンの介護がしたい。」と書いていました。この施設の職員さんのように、一人ひとりと向き合う気持ちを持って、個性や好みを知って接すれば、自然とオンリーワンの介護ができるのではないかと思えます。そういう気配りが信頼関係を築くものになっているのではないのでしょうか。

このように信頼関係が大切になるようなことが私の日常でもないか、考えてみました。私は、部活動でテニスをやっていますが、テニスでは「あ・うん」の呼吸が必要になります。前衛がボレーをはずした時、後衛がストロークでカバーしなければなりません。この呼吸を支えるのが互いの信頼関係です。クラスでは行事のときにどれだけの力が発揮できるかはクラスのまとまりにかかっています。そのまとまりを作るのは相手を思いやる気持ちだと思います。お互いを思いやって接していけば、信頼関係が深まり、まとまりのあるク

ラスになると思います。

陽光苑を見学して、私は信頼関係と相手を思いやることの大切さを学びました。そしてこれらは介護という仕事だけでなく、日常でも大切であると気づきました。私は自分のクラスやクラブで仲間と信頼関係が築けるように、相手を思いやる言動を心がけたいと思います。



優秀賞

「頑張れ」という言葉



伊勢市立沼木中学校

三年 羽根 諒悟

東日本大震災の報道が、テレビを覆いつくし、その記事で新聞が毎日、埋め尽くされる中、僕は、二月のニュージーランド地震で恋人を亡くした、二十五歳の女性の記事を目にしました。その女性は、ニュージーランド地震の直後は「がれきの下に彼がいる。」と思うと、ものを食べることができなかったそうです。

東日本大震災で、家族や友達、大切な人を亡くした人達も、今、同じようにものが食べられないんじゃないだろうか、と僕は思いました。大震災の後、とにかく食料が足りないということで、全国から集められ、次には、それを被災地に運ぶガソリンが不足しているということ、今度は、燃料も何とかしなくてはと日本全国の人が

動いています。けれど、その食料が手元に届いても食べる気力が無い人が大勢いるのではないだろうか、と僕は思います。

そんな人達の心のケアをしてくれる人達って、今、いるんだろうかと心配になります。もし僕だったら、家族や友達や大切な人が亡くなってしまうたら、食べ物を目の前に置かれても、きっと食べられません。ずっと泣いてばかりいると思います。

ニュージーランド地震で恋人を亡くした女性の記事にこんなことも書かれていました。「頑張つて」「頑張ろう」という言葉は重すぎて負担になってしまふのです。みんな、頑張っているんです。精いっぱい、生きることを。だから、「頑張つて」と言わないでほしい。大切な人が亡くなったり、行方不明になったりしても、自分は生きていかなければいけない。それだけでも、頑張っているんですから。

同じような話を母から聞いたことがあります。実は母には弟がいたのですが、その弟は、母が三歳の時に病気のため、たった八ヶ月生きただけで亡くなってしまったそうです。僕に、おじさんがいて、その人が赤ちゃんの時に亡くなった話は幼い頃から何度も聞いていたけれど、その時、祖母がどんな気持ちだったかということは、僕が小学生の高学年になって、初めて、母から聞きました。

祖母は、幼い息子を亡くし、三歳だった僕の母を育てられない程、ひどい精神状態だったそうです。その時、祖母にとっては、自分の

兄や姉、友達から言われる「頑張らないかんよ」「頑張らないな」

「頑張つてえな」という言葉ほど辛いものはなかったそうです。祖母は、「何をどう頑張つたらいいの」と思い、そんな言葉より、今、どれだけ辛いのか、どれだけ大変なのか、ただ話を聞いてほしくて、そして、泣かせてほしかったそうです。しかし、たまに話を聞いてくれる人がいても、その人は、わざと全く関係のない話をしたり、笑わせようとしたりしたそうです。祖母は、その時、ただ手を握つて、抱きしめて、一緒に泣いてほしかったそうです。

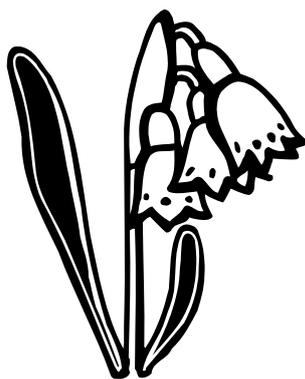
僕たちも周りで悲しんだり、苦しんだりしている人がいると、その人に対して、元気になってほしいと思ひ、関係のない話をしたり、無理に笑わせようとしてしまうことってあると思います。でも、それは、もう少し後になってから必要なことで、最初は、その人の悲しさ、苦しさをただ受け止めて、とにかく話を傾け、泣きたかったら思いつき泣かせてあげることが大切なのかもしれません。

僕は、「頑張つて」と言われて嬉しい気持ちになつても、辛い気持ちになつたことはありません。それはとても幸せなことなんだと思ひます。

今回、このニュージーランド地震で恋人を亡くした女性の記事を読み、母から聞いた祖母の話を思ひ出し、僕は、改めて、東日本大震災で大切な人を亡くした人達の心の痛みを見過ぎさないで、「頑張つて」という言葉の使い方についても、自分なりにもっと、考え

ていかなければならないと思ひました。

相手を元気付けようとした言葉で、かえつて人を傷つけてしまわないように、言葉を届ける相手の気持ちを考えながら言葉を使ひたいと思ひました。



●部活動や学校外活動

陸上競技部

●好きな科目

体育

●好きなことや好きなもの

スポーツ観戦・映画鑑賞

●将来の夢

陸上選手

※優秀賞※

スタート



四日市市立富田中学校

三年 佐藤 亜美

小学六年生の女子が首をつって自殺したニュースをみた。学校側はいじめがあったことは認めたが、それが原因で自殺したことは認めていない。遺書などが見つかっていないというのが認めない理由らしい。

言い訳を並べるのは子どもだけでなく、大人も同じだと思う。どう考えてもいじめが原因で自殺したのだと私は思う。亡くなった女子は母親がフィリピン人なのをからかわれた。六年生になって仲のよい友達とクラスが別れたのがいじめの原因で、給食の時間は一人で食べていた。担任もクラスの人も気付かなかったというのはおかしい。知らないフリをしていただけ。みんないじめに加わっていた。

私のいる学年にも不登校が何人かいる。顔も忘れてしまうくらいに一年以上会っていない人もいる。だから私もいじめっ子。この中でいじめられて誰かが死んだって、気にしない、気にしない。だって直接いじめてない。いい子のフリして、勉強してるフリしてなんでも出来るフリして、上手に自分をかくしてる。この事件をきっかけに、何か行動で気持ちを伝えたくなった。

顔も性格も声も鮮明に覚えている、最近学校に来ていない子に電話した。特に仲良しだったわけでも、毛嫌いしていたわけでもない。なぜ学校に来なくなったかも、その理由に関係がある人も知らない。おせっかいかもしれない。でも、何もしないのは逃げている気がしていやだった。それまで普通に同級生として接してきて、急に他人のように冷たい態度はいやだった。電話番号を打ってでるのを待つ。その間の空白の時間が息苦しかった。お母さんらしき人が電話にでる。本人と話をすることはできなかったけれど、最後に言ってもらった「ありがとう」が心地よかった。

そっとしておくことが私の優しさ。行動すること、気持ちを声に出すことの優しさを知らなかった。小学生でも追いつめられて自殺する。だから中学生でも自殺できる。

あのニュースを見たとき、自分がこわくなった。気付いているのに何もしていない自分がこわくなった。行動することで、自分も相手も開放されることを覚えた。

私が行動することで、まわりが気付かないうちによくなっていく
といい。できたら、一人だけでも気付いて行動する勇気をもってく
れたらいい。思っていることを声に出して言うことで、何か
かわってほしい。自殺しようとしているその人が、一言ですくわれ
るかもしれない。

何かにおいつめられていて、そのとき自殺という選択をさせるの
はその人ではなく、その人のまわり。私はそのまわりにいるかもし
れない。だからそこから抜け出したい。知らないフリをして、何も
出来ず、そんな後悔はしたくない。

小学六年生の女子が首をつって自殺したニュースをみた。私にと
ってそれは行動をおこす一つのきっかけ「スタート」だった。私は
この事件を忘れない。自殺という事実と向き合うことが、一歩をふ
み出す勇気になると信じているからだ。

もう一度、あの不登校になってしまった子に電話しよう。今まで、
小・中学校と一緒にすごしてきた仲間として。あなたを思う人間が
いることを伝えたいから。

●部活動や学校外活動

吹奏楽部

●好きな科目

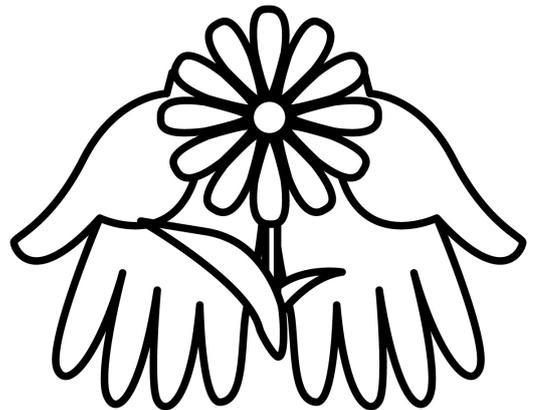
国語

●好きなことや好きなもの

音楽鑑賞・ピアノを弾くこと

●将来の夢

教師



優良賞

私にとっての人権学習



伊賀市立崇広中学校

三年 吉本 ゆかり

私の両親は南米ペルーの出身で、約二十年前に日本に来ました。

そして、日本で私や兄、弟を生んで、今日本で暮らしています。だから私は、2つの国の文化と共に生活しています。小さい頃は、自分がどちらの国の人なのかわからなくて、いやでした。家ではスペイン語を話し、外では日本語を話しながらの生活がなんだかいやで、「自分は、日本人でもないし、ペルー人でもない。」と思えたりもしました。日本にいたら、ペルー人のように接され、ペルー出身の人たちといたら日本人のように接されることがいやでした。「どちらかはっきりしてほしい。」と思いました。

その頃の私は、みんなの前でスペイン語を話すことに抵抗があり、

他の外国の人にあいさつでハグしたりするのいやでした。みんなとちがうのいやでした。

勉強でわからないところがあつたりしても、ペルーと日本の計算の仕方がちがったりもするので、ちゃんと聞けなかったり、学校の便りを私がかわりに読んで、それをお母さんたちに説明したりするなど、なにかと面倒なことがたくさんありました。友だちと家のご飯の話をするとき、国の食文化が違うから話についていけなくなつたりもしました。

今でもたまにそんなことがあります。でも今は、いやだと思つたりしません。むしろ、「がんばつたるねん!。」と勢いがつきます。そう思えるようになったのは、人権学習のおかげだと思います。はじめてするときはいやだし、めんどうくさいと思つたりもしましたが、今は「よしがんばろう!。」と思えます。

特に印象に残っていることは、「全国水平社」と「みんなちがつて、みんないい」という言葉です。「全国水平社」は小学校のときに習い、水平社宣言が心に残っています。水平社の人々は部落差別を受けながらも、胸を張って堂々と生きていくことに、「なんてすごい人たちなんだ。」と感動しました。自分は、みんなと違うことに悩んでいましたが、自分も胸を張り堂々としたと思えました。そして、「みんなちがつてみんないい」の言葉を知り、人それぞれに個性があり、それは恥じるのではなく、むしろ、喜ばしく、あたりまえ

のことだと思えるようになりました。この印象に残っている2つのことは、小学校の頃はあんまり意味がわからなかったけれど、中学校に入り、人権学習をどんどん学んでいくと、意味が分かるようになってきました。そして、私もああなりたいと強く思いました。

私はもっと二つの国の文化を知り、二つとも生かしたいと思います。そして、日本とペルーという異なる文化を私がかけ橋となつてつなげていければいいと思います。

はじめはいやだった、二つの文化で生活をするということ。自分がどこの国の人なのかわからず、悩んだり、たまに苦しんだりもしました。けれど、学校で人権の勉強をし、改めて個性というのを知り、気持ちが楽になりました。

今までは、二つの文化を持つことがいやだったけど、今はそのことに誇りを持っています。そして、これからも日本とペルーの文化を持つことに堂々と胸を張り、日々生活していきたいと思います。また、将来、私のような環境にある子に、私のことを話すことができればいいと思います。そして、その子も私のように二つの国の文化を持つことに、自信を持って、堂々と生活してもらえたらと思います。



●部活動や学校外活動

ソフトテニス部

●好きな科目

英語

●好きなことや好きなもの

お菓子づくり

●将来の夢

国際的な仕事か料理（特にお菓子）関係の仕事に就くこと

＊＊優良賞＊＊

Let's volunteer



セントヨゼフ女子学園中学校

三年 はや 早川 かわ 梓 し 恩 おん

みなさんは今、何かボランティア活動をしていますか？私の学校はとてもボランティア活動がさかんで、学園会でペットボトルキャンプを集め、それをお金にかえて募金したり、希望者が街頭募金に参加するなどの活動を行っています。その中でも、全校生徒のほとんどが参加する活動がウォーカーソンです。毎年、私の学校はこの活動を行っています。昨年は第二十五回目となるウォーカーソンでした。ウォーカーソンとは、参加者が決められた十kmのコースを歩き、終わってからの行為に対して、自分で探したスポンサーの方から約束しておいた金額のお金を支払ってもらい、それを募金するというものです。昨年は、約百五十六万円をカンボジアの女性の自立とシエ

ラレオネの教育支援として送りました。

昨年のウォーカーソンで私は、スポンサーを集めるために、ウォーカーソンの説明プリントを持って家族や親せきなどに募金する国の実情を話しました。しかし、「今、自分がスポンサーになる必要があるの。」や、「ほかの人に頼めば。」など、消極的な態度の人が多く、最後には「お金さえ払えばいいんですよ。」と言われ、話を片づけられることもありました。

そんな時、私は少しもつたいないなあ、と感じます。せっかくボランティアに参加できるというのに、お金の問題だけで片づけるなんて！私はたくさん寄付金を下さいとは、一言も言いませんでした。私は、少しでもウォーカーソンに興味をもっていただいて、参加してもらいたかったです。ウォーカーソンで募金したお金は、きつと今ごろシエラレオネとカンボジアの人々の笑顔のために使われていることでしょう。そう思うと、こんな私でも簡単に世界の大きな問題の解決に協力できるのだ、と嬉しくなります。そんな喜びを、もっとたくさんの人に味わってもらいたい。

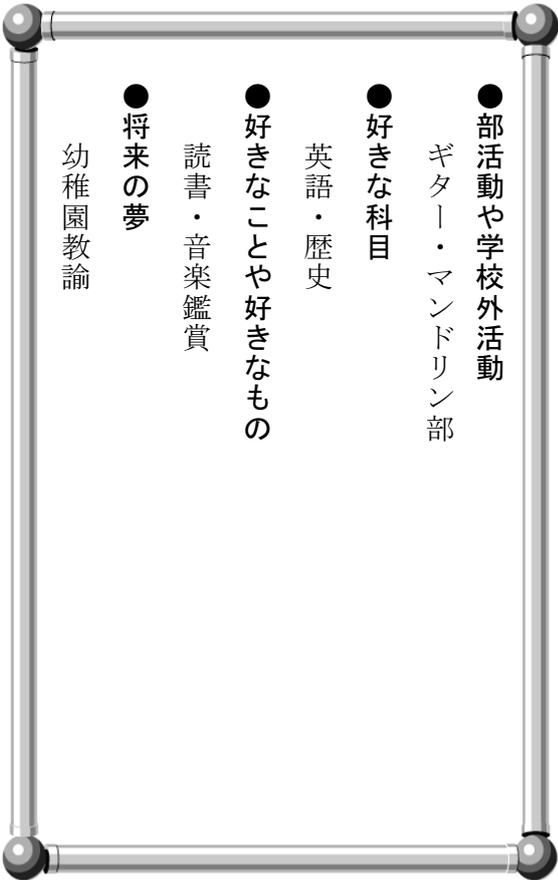
今、世界中では、貧困がどんどん進んでいます。それは決してアフリカなどの国だけではありません。アジアなどの、今は戦争がない国でも、ごく一部の人が富を独占し、ほかの人々は住む場所も食べ物もない、といったように、本当に平和とはいえない国もたくさんあります。私たちには住む場所もきれいな水もあるし、食料

だって余るほど足りています。そんな、なにもかも足りている私たちにとっては、自分とは正反対の状況におかれている人々のことなど、目に入らないのかもしれない。他人事のように思えて、真剣に考えられないのかもしれない。でも、そんな人々がこの今も苦しんでいる、ということは、事実なのです。地理の授業で、現在統計学上では世界の総人口をまかなえるだけの食料が生産されているというのに、飢餓が発生しているということを知りました。その原因は、先進国と発展途上国の食料配分が極端に不平等だということだそうです。つまり、先進国が世界の食料の多くを独占し、大量の食べ残しを出しているというのに、他の国では一日分の食料もない、ということがおきているのです。WHOが今年の五月十三日に発表した世界保健統計によると、平均寿命が最も短いのがアフリカのラウイの四七歳、日本は八三歳とその差が三六歳もあります。日本は先進国です。他人事などでは絶対にありません。私たちが住んでいるこの地球で、今おきている問題なのです。自分と無関係なわけがありません。

今、地球でおきている大きな問題を解決するのは、私たち一人一人の小さな行動です。けっして、大きな力を持った国の機関や団体ではありません。その行動はしようと思えば今すぐにでも、はじめられるものばかりです。その小さな行動が、遠く離れた国々で暮らす人々の笑顔につながるのです。私たちはもっと積極的にボランティア

イアに参加するべきです。あなたも参加できます。しようと思うなら、今すぐにでもです。ほんの少しの勇気を出して、「ボランティア」をはじめてみませんか？

今年第二十六回目のウォーカーソンが実施されます。今年も多くのスポンサーを募るために説明をし、10kmの道のりを、シエラレオネや東北の人々のことを考えながら歩きたいと思います。

- 
- 部活動や学校外活動
ギター・マンドリン部
 - 好きな科目
英語・歴史
 - 好きなことや好きなもの
読書・音楽鑑賞
 - 将来の夢
幼稚園教諭

＊＊優良賞＊＊

「私の決心」



松阪市立飯高東中学校

三年 石上朝香
いし がみ あさ か

私は、自分の夢について聞いていただきたいと思います。

私の将来の夢は「自動車整備士」になることです。驚かれたかもしれませんが、小学校の高学年ごろから本気で考えてきました。

きっかけは、家が自動車関係の仕事をしていて、父が整備士だからです。あるときお客さんが、「ありがとう」と言って笑顔を父に向けているのを見て、人から感謝される仕事がしたいと思いました。

でも、クラスの友達に整備士になりたいと言ったりするとすごく驚かれました。他にも色々な道があるのではないか、と考えたりもしました。自動車科に進めば大好きなバレーは女子の部がないのでできなくなります。普通科高校に行って大学に進学し資格をとる方

法も考えられます。私には弟もいるので、ここの後継ぎは弟がした方が親もきつと喜ぶのではないかとか、女性でこの仕事は厳しいし、めずらしい、と少し抵抗もありました。

中学二年生での職場体験学習は男子一人と私の二人で自動車整備工場でお世話になりました。職場の方は気を使って下さり、男子には力仕事ばかりで、私は洗車とワックスがけがほとんどでした。

でも、車の細かな機械の部分や細工などを知ることができました。どういう仕組みになって車は動いているのか、と疑問と興味を抱きました。この先それらを知ることができると思うとワクワクしてきました。この職場体験学習で改めて整備士という仕事のおもしろさを実感できたと思います。と同時に女性には大変そうな仕事など、いろいろなことを発見できました。

最近、家族は私の将来考えていることをわかってくれたみたいで、「高校はどこにするのか」とか先のことを一緒に話したり、父は自分の経験について教えてくれて、とても参考になるし、何より後押ししてくれます。担任の先生も「男子が多い中でも自分の意見がはっきり言えるように」とアドバイスをしてくれました。それに近年は、女性整備士も増えたということも知りました。

こうして、様々な人が私の後押しをしていることに気づき、持っていた迷いは消えました。

「自分の力をつけるためには経験を積みなさい」といつも母に言

われています。やはり、男子が多い中でやるにはなんでもその倍をしなければならぬ、と心に決めています。

今の時点で私は、高校から自動車科へ入りたいと考えています。はじめにお話した通り、普通科高校へ行って大学に進学、などという方法もあるのですが、私は早くから自動車について学びたいし、高校で三級の資格をとりたいと思っています。高校に入っただけで、やはり男子の方が体力的に強かったり、何をすることもできるのが早い、などの差が出てくると思います。でも、私はその倍すると決めているので負けないよう努力し、技術と経験を身につけたいです。だから今は、男子が多い中でも自分に自信が持てるように、この中学校でできたえたいと思っています。

他には、こうも考えています。弟も整備士になったら、困ったときはお互い二人で助け合い、二通りの意見が出せる、というどこにも負けない強いコンビをつくることができます。

だからその為に今私ができることは、部活や学校生活など様々な場面で精神をきたえることと、父から教えてもらい、車について少しでも多くの知識を得ることだと思っています。

あと私に必要なのは、コミュニケーション力です。私の家の工場にはよく近所のおじいさんやおばあさんが散歩がてらにといらっしやいます。その、話しをしている時の近所の方の表情はとても明るくて、来た時よりも元気に帰っていかれます。

コミュニケーションをとる中で、やはり重要なのは、「元気」、「笑顔」だと思います。そして私は元気と明るさがとりえなので、それらをたくさんの方に分けることができたら嬉しいです。

これから先まだまだ悩んだり、あきらめかけたりすることもあると思うけど、そのときは自分のことをたくさんの人が見てくれているということを絶対忘れずに数少ない女性整備士の中でも、整備士のすべての人に尊敬され、認められる存在になれるよう努力したいです。私は二十年後、立派な整備士として輝いていることでしょう。

●部活動や学校外活動

部活 バレーボール (主将) 学級役員 書記

●好きな科目

理科・国語

●好きなことや好きなもの

音楽鑑賞

●将来の夢

自動車整備士

優良賞

姉に教えてもらったこと



紀北町立三船中学校

三年 工く門もん 万ま佑ゆ子こ

私には四歳年上の姉がいます。陸上でデフリンピックに出るほどです。とてもがんばり屋で自慢の姉です。私は姉が大好きです。母はいません。私が小さい頃から入退院を繰り返していましたが、小学校六年生の時に亡くなりました。料理やピアノや裁縫が得意ないかにも「お母さん」という感じのやさしい人でした。

姉は、母のお葬式の日、私や父より、母の母より、たくさん泣いていました。私はお葬式に参加した人から、

「がんばって。」や「元氣出して。」

などの言葉をもらいました。しかし、姉に話しかけた人はほとんどいませんでした。姉に話しかけた人は、祖父、祖母、あとは五人ぐ

らいの人でした。私は、会ったこともないような人、名前もわからない人など、お葬式に参加した人全員に話しかけられました。当時私は小学生で、幼かったからなのかもしれないけど、姉に話しかける人は少なかったです。

私の姉は耳の聴こえない聴覚障がい者です。だから、まわりの人たちは話しかけづらかったのかなと思います。お父さんですら、時々姉の言っていることが分からないときがあるのに、他の親族に姉の言っていることが分かるはずがありません。耳が聞こえないと、自分の声が分からなくなるので、どうしても発音がおかしくなって、よほど慣れてないと聴きづらいのです。私も小さい頃は姉の言っていることが分からず、よくけんかをしました。

母が亡くなってからも、ハンデを持ちながらも、姉はいろんなことをがんばっていました。全寮制の高校だったので、毎日はいえなかったけど、土日祝日は必ず家に帰ってきて、掃除などの家事をしたり料理を作ったりしてくれました。私にとって姉は母親がわりのような存在でした。本当に、

「ありがとう。」

と言いたいです。

今、姉は大学生です。愛知県の知多半島にある大学に通っています。大学は家から遠いので、姉は一人暮らしです。見ず知らずの場所に一人暮らし。健常者でも不安なのに聴覚障がい者である姉はも

つともつと不安だろうなと思いました。

姉の引越しのときには私もついて行きました。荷物を入れたあと、同じアパートに住む方が出てきました。父は、軽い挨拶と姉の障がいについて少し説明をしました。すると、その住人さんが言うてくれました。

「私は大学で聴覚に障がいのある子について勉強しています。大丈夫ですよ。心配いりません。他の住人の方にも、説明しておきますね。」

とても温かく快く姉を受け入れてくれました。その方の温かいことばと優しさに、私の心も温かくなりました。また、その方は、そのことばを手話でも話してくれたので、姉にも分かりました。姉も嬉しかったと思います。その後も、アパートの方たちに親切にしてくらっているようで、良かったなあと思っています。

私は、姉が障がい者だからと差別されたところを見たことがありません。それは、周りの人たちがとても優しく、そして、姉のことを理解してくれているからだと思います。でも、同じ障がいをもった姉の友達の中には普通学校でいじめを受けたから、ろう学校へ転校してきたという人も何人かいます。なぜ、耳が聴こえないだけで、そんな差別を受けなければならないのか、お互いに理解し合えば差別は無くなると思います。姉のアパートの住人さんたちのように、温かい気持ちで迎えてくれたら、みんなが安心して暮らせる

思います。

このように、私は、姉の耳が不自由であることを通しているいろんなことを体験したり、感じたり、考えたりしてきました。そういう意味でも姉に感謝しています。姉のように障がいをもった人も、みんなが安心して暮らせるようになると思います。そして、姉にこれからも、元気に自分らしく楽しくがんばって生きていってほしいと思っています。

●部活動や学校外活動

ソフトテニス部

●好きな科目

社会・体育

●好きなことや好きなもの

ピアノ・読書

●将来の夢

看護師

※優良賞※

明るい理容界の未来を目指して



亀山市立関中学校

三年 もり 森 もと 元 のぞみ 希

私には夢があります。私は世界各国どの人も笑顔にできるような仕事がしたい。そしてそれは、理容師、美容師さんと、父と母を見てそう感じました。だから私の夢は、父の跡を継ぎ理容師になることです。

理容師と美容師の違いは、さほどありません。美容ではメイクをしたり、着物の着付けをしたりしますが、理容ではしない所があります。しかし、理容では顔剃りをしますが美容では一般的に顔剃りはありません。私の父の店は理容店ですが、美容も取り入れています。

私は今まで理容や美容で将来生活していくのは無理なんじゃないかと、ただ髪を切るだけの仕事に本当になりたいのだろうか、お

客様だって理容店をそれほど必要としているのだろうかなど、色々な事を考えていました。でも、それは勝手な思い込みで誤解であると気付きました。

私がそう思った理由は3つあります。

まず一つ目の理由は、私の父も加入している「SPC・エスピースー」という理容や美容界の人達の勉強会のようなものの出来事です。SPCには全国のさまざまな人が加入していて、東京に本部があります。

ある日、本部に集まる事になり父が行くと震災の後にも関わらず東北の人達が全員参加していました。そして東北の人で本部の副部長を務める人がこんな事を言いました。

「私は従業員が二百人以上いたお店が津波で流されてしまいました。残ったお店も原発の近くにあり行く事が出来ません。でも、みなさんが協力して物資を届けてくれたり、従業員を預かってくれたり、お店を一軒くれたりと助けて頂いて本当にありがたいです。二年後には絶対復活させます。見ていて下さい。」と涙ながらに語る姿は父の胸を打ち、また私も深く感動しました。

二つ目の理由は、父の店に貼ってあった一枚の紙に書かれていた詩です。その詩には、

「美容師とは天使の仕事」

シャンプーとは嫌な思い出を流してあげること。カットとは引き

ずっている過去を切り落してあげること。セツトとは心を整えてあげること。天使の仕事にいつも誇りを。と書かれていました。ただ良いように言っているだけではないかと思う人もいますが、ただ髪を切るだけの仕事だと思っていた私にとつてすごく大切な事で、理容師や美容師が人の役に立つ仕事なんだと思えたきっかけになりました。

三つ目の理由は、父の店のお客様で、ほぼ毎日いらっしゃる方がいます。その人は来て何時間かしてから髪も切らずに帰っていきます。そして次の日も、少し喋って帰って行きました。私はすごく不思議に思っ、父に聞いてみました。父は嬉しそうな顔で言いました。「あの人は、この店を家みたいに使っていて、今日は予定がない。でも何しようか考える前にまずあのお店に行こうと、うちの店に来てくれているんだよ。僕はこれからも、そういう店であり続けたい。」私はそのとき、「ああこういう店が人を笑顔で幸せにして、何もなくても居たいと思われる店なんだ。私もこの職業に就きたい。」と素直に思いました。そしてそれと同時に、これが理美容界の在るべき姿で、なるべき明るい未来だと私は感じました。

だから私は、もっと明るい未来を頑張つてつくつていこうと思います。

●部活動や学校外活動

美術部

●好きな科目

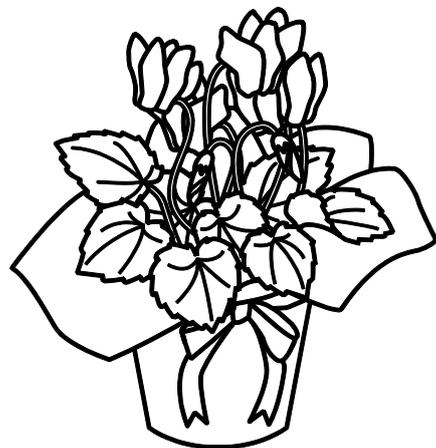
英語

●好きなことや好きなもの

音楽鑑賞・読書

●将来の夢

理容師



＊＊優良賞＊＊

神様からの試練



名張市立南中学校

三年

塩しお 田た 桃もも 葉は

私は卵や牛乳の味を知りません。想像も全くつきません。私は生まれた時から重度のアレルギーとアトピーがあります。卵・牛乳・ソバなどにアレルギーがあり、全く食べられません。アトピーの症状はほとんど無くなりましたが、アレルギーの方は治療をして少しずつ良くなってきています。しかし、まだ食べることは出来ません。

アレルギーは長男や長女にあつたら次男や次女の方が重度のアレルギーを持つ事が比較的高いのです。私も次女なので姉とは比べものにならないほど私の方が食べられない物が多いのです。

私が初めてアナフィラキシーショックを起こしたのは一歳の時でした。母が私から目を離している間に、姉が飲みかけで置いてあったヤ

クルトを飲んでしまいました。すぐに救急車で運ばれ、点滴をしたら少しずつ症状が落ちついたそうです。私はこういった大きなアナフィラキシーショックを五回ほど起こした事があります。しかし喉が痛くなったり蕁麻疹が出る程度の事は数え切れない程ありました。

中学一年生の時、いつも行っている焼肉屋で食事をしていました。食べていると喉が痛痒くなってきたので、私はお肉でアレルギー反応が出たと思いジュースで流し込もうと飲み続けました。すると、蕁麻疹も出て腹痛・喉のかゆみも激しくなり、呼吸が苦しくなってきたので父が救急車を呼びました。その日は土曜日だったのであまり病院はやっておらず、小さな病院では重度のアナフィラキシーショックには対応出来ないかと断り続けられ、三十分以上が経ちました。その間に私はどんどん症状が悪化していき、その時の事はあまり覚えていません。やっと診てもらえる病院が見つかり私は安心しました。救急車の中ではずっと母が私のそばについていてくれ、「大丈夫やで。お母さんがついてるから安心して」と繰り返しずっと言い続けてくれました。私は救急車の中で本当に死んでしまうのではないかと、何回も思いました。病院は遠い所だったのでその間に症状が少し落ちついていき、入院する事になりました。

いつも行っている焼肉屋さんなのに、なぜアナフィラキシーショックが出てしまったのかと調べていくと、肉やたれには私がアレルギー

がある物は絶対に入っていないという事が分かりました。そこでお肉以外でアレルギー反応が出たのか考えていくと、私がお肉を流し込む為に飲んでいたジュースに、私アレルギーの乳成分が混入していた事が分かりました。飲み物は自分で入れるシステムでおそらく私が入れる前に乳成分の入った飲み物を出していて、私の入れた飲み物に混入していたのだと思います。いつもは、乳成分が混ざるといけないので、管を洗い流す為に少し出してから入れていたのに、この日は油断し洗い流さずに入れてしまったのです。ほんのささいな油断でこんな事になってしまうという事を身を持って経験したので、この時からは一回もアナフィラキシーショックを起こさないようになりました。

私は母にどうしてこんな風に生んだの、と言ってしまった事がありました。すると、母は神様がこのアレルギーに耐えられるのはあなただと思ったから特別な試練を与えてくれたのかもと言っていました。それを聞いた私は今までずっと、どうして私だけみんなと同じ物を食べられない体質なのかという思いを持っていたのですが、その思いが今は全部吹っ切れました。神様が私なら我慢出来ると思っていてくれるかもしれないという事に少し誇らしく思えるようになりました。

私は将来、アレルギーがあるという事を活かして保育士になりたいと思っています。アレルギーがある子供を、親が安心して保育所に預ける事ができアレルギーがある子供が保育所でみんなと同じ物を食べられない孤独な気持ちと不安な気持ちを誰よりも分かってあげられる

先生になりたいと思うからです。



●部活動や学校外活動

吹奏楽部

●好きな科目

音楽

●好きなことや好きなもの

ピアノを弾くこと・買い物

●将来の夢

保育士

※優良賞※

チャットの危険と崩壊と再生



鈴鹿市立鈴峰中学校

二年 村田知樹

僕は、近頃の少年の問題行動の一つに、インターネットの掲示板などを通じての、他人への誹謗中傷が挙げられると思います。

よくニュースなどでも話題になりますが、近年、匿名性を利用して、他人に、悪口を書き込むということがおきています。

僕は、これはとても、卑怯且、卑劣な行為だと思います。他人の気持ちを考えてない、とても残酷な行為だと思います。

インターネットは文字を打って気持ちを伝えます。会話と違って、顔が見えないから、伝わりにくい、というのもあるのでしょうけど、何かの弾みで、「よし、悪口を書いてやるぞ」という気持ちになったとき、口だと、咄嗟にでてしまった、ということがあられるかもしれません。

んが、文字を打つときなら、手が止まると思います。要するに、怒りに我を忘れて悪口を言ってしまうという確率がインターネットで文字を打つ方が、低いと僕は思います。それなのに、悪口を書くということは相手の反応を見て楽しんだり、相手を傷つけて楽しむ、という人がインターネットでの誹謗中傷をするのでしょう。本当に酷いと思います。

僕はよく、インターネットで野球のオンラインゲームをします。そのゲームでも掲示板が存在します。僕はそれをたまに見ています。そこで一回、亡くなったプロ野球選手を惚んだタグのようなものがあり、それを見たら、皆、野球選手の死を悔んでいましたが、一人だけその死を軽視した発言をしていました。その後、非難されていたようですが、反省しているようには見えませんでした。おそらく、注目されたかっただけなのでしょうが、「人の死をなんだと思っているんだ！」と思いました。見ていて憤りを感じました。

そして、ゲーム内でのことで、誹謗中傷とまではいかないとしても、あまりいい気持ちにならない文を書かれました。少し嫌でした。自分はこのように文を他人に書いちゃだめだ、ということを確認させられました。

さらに、こんなことも考えられます。ただの悪口ではなく、いじめに発展する可能性があります。たった一つの言葉に、周りのチャットに書き込む人が過剰に反応し、面目半分に便乗し、炎上するという最

悪の事態も起こりかねません。それほどにチャットや、インターネットは恐ろしいものです。自分の軽い気持ちで打った言葉が刃となり、どんどん数を増やし、向けられた相手に襲いかかり、死に追いやることもあるのです。だから、インターネットから発言するときは、十分責任を感じた上で発言してもらいたいです。

これらの理由により、インターネットでの軽率な発言や、匿名性による、自分の正体が知られないと思っ言いたい放題することは、とても、卑劣で悪質であることが分かります。

これらのことを生まないためにも、インターネットでの会話などは、日常の会話などよりも、慎重に言葉を選ぶようにしなければなりません。下手をすると、犯罪にもなりかねません。そういう危険性をはらんでいます。ですから、決して相手を傷つけるような言葉は使わず、コミュニケーション能力を使い、楽しく相手と話せるようにすればいいと思います。

本来、インターネットでのチャットなどは、皆がいろんな場所から楽しく会話できるように、という願いを込めて創った「場」だと思います。それが、ネットマナーを無視した一部の人々のせいで壊れてきています。だから、最近はやより一層、ネットマナーを遵守していく必要があると思います。インターネットの掲示板、チャットなどを使うときは、しっかりネットマナーを頭に入れ、相手に対する思いやりを持って使っていききたいです。

●部活動や学校外活動

野球部

●好きな科目

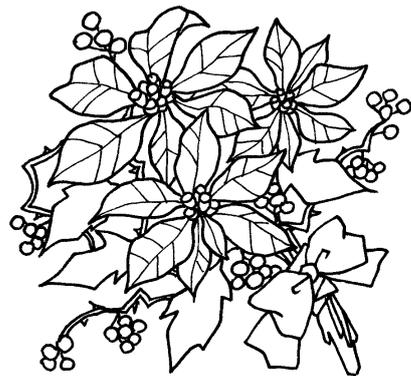
体育

●好きなことや好きなもの

寿司・野球・読書

●将来の夢

野球に関わる仕事



※優良賞※

改正臓器移植法について



鈴鹿中学校

三年

奥^{おく}山^{やま}雄^{ゆう}貴^き

先日、東日本大震災、福島第一原発事故のニュースに関心が集まっているさなかに意思表示のない少年の臓器が親族の承諾によって提供され、臓器移植が行われました。昨年臓器移植法が改正され、本人が拒否していない限り家族が承諾すれば脳死での提供が可能となり、また子供でも提供者となることができるようになりました。これによって、移植件数が増え助かる命も増えたことは事実です。しかしいくつかの問題点もあると思います。

まず脳死になった人が意思表示をしていなくても、家族が同意すれば臓器提供が出来るということです。大切な家族の突然の脳死という事態に直面し、患者がドナーカードを持っているのを知って、本人が

そう望むのならば思い同意する例が少なくないと聞いています。それが本人の意思に関係なく家族だけの判断で臓器提供に同意するとなると、あとで自分を責めることになりかねません。あるいは提供を承諾しなかった家族がいたとしてもその決断を批判することがあってはいけません。提供は義務ではなく、あくまでも選択肢の一つなのです。また重い決断をした家族には十分な心のケアが必要です。

次に脳死は臓器提供の場合のみ人の死とされていますが、臓器提供を優先するあまり急いで死を受け入れることがあってはいけません。片一方は残り少ない命、もう一方は移植を受ければ長く生きられる命、しかしどちらもその重さに差があるわけではありません。生きられる時間の長さで命の重みが変わるわけでは無いからです。

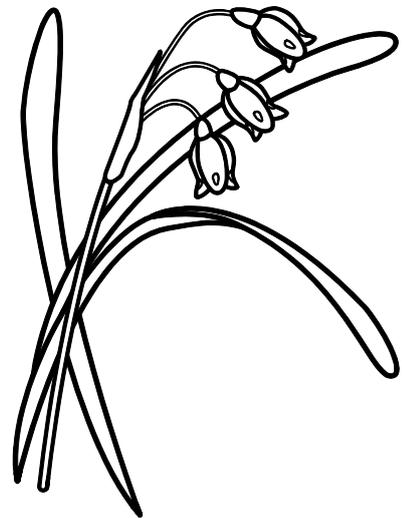
そして、子供の臓器提供は、意思表示が出来ない小さな子供の場合特に問題になります。虐待された子が脳死になる例が少なくないからです。第三者による的確な判断が必要となってきます。

臓器提供を受けて元気に過ごされている方々の話を聞くと本当に臓器提供という命のリレーの尊さが感じられます。でもその裏にある、提供者の家族の心の内ははかりしれません。私の叔父は、脳内出血でもう助からないと言われました。しかし人口呼吸器を付けながらも二週間生き、その間家族や親しい人たちが、代わる代わる枕元で声をかけ、手を握り、みんなに看取られて亡くなりました。意識はなくても、手は温かく、心臓の音もします。この状態で家族自らが死を選択する

ことは並大抵では出来ないことを身をもって感じました。もう助からないのなら最後はせめてだれかの役に・・・というのは簡単ですが、実際はとても難しいことなのです。そのような中で家族が重大な決断をしようとするならば、第一に、十分な医療が尽くされていることが、大切です。救えた命かもしれないと思えば後悔が残ることでしょう。

私は先月、十五歳になりました。十五歳になればカードを持って臓器提供の意思表示をすることができます。もしも自分が脳死になることがあれば、自分は何もできないけれど最後に少しでも誰かを助けることが出来るなら、自分もドナーになってもいいと思いました。しかし家の人にそのことを話したら、少しびっくりした様子でした。普段から死ということタブー視せずに家族のなかでも話し合うことが大切だと思いました。

移植法が改正されて助かる命も増えました。しかしこれが提供臓器をふやしたいがための制度になってしまうことがないようにしなければいけません。改正臓器移植法が提供を決断した家族も受ける側もこれで良かった、と思えるような制度として定着するかどうかは、医療関係の人たちはもとより私たちも命の尊さを再認識することから始まると思います。みなさんも臓器提供の意思が有る、無い、にかかわらず家族と、命の大切さ、生きることの意味について話し合ってみてください。



●部活動や学校外活動

三重ジュニア管弦楽団

●好きな科目

英語・数学

●好きなことや好きなもの

ヴァイオリン

●将来の夢

人に喜んでもらえるような仕事になりたい

＊＊優良賞＊＊

今亡き父へ 父の死から想うこと



名張市立北中学校

二年 高尾 美智子
たか お みちこ

私の父は昨年四月の終わりごろ、がんにより死去しました。この作文を書いた日の前が父の命日でした。そう思うと父のことが思い出されて父のことを作文に書こうと思ったのは、これがきっかけです。

大切な家族の死は家庭に大きな影響を及ぼします。実際に家族の死によってうつ病になる方もおられます。このように家族の死というものは家庭内の明るさを奪ってしまいます。大切な人との別れは、いつ、どこでなどと予想もできない本当に唐突なものです。そこでこのような経験をした私が父の死から想うこと、また他の人にも聞いてほしいことを、この作文を通して他の方々にも、今亡き父にも伝えたいと思います。

一つ目は大切な人との時間、一秒一秒でもその時間を大切に楽しんでほしいと思います。大切な人との別れの時、何も悔いは無かったと、想い残すことは何もないと笑っていけるように、この星に残る人もそう想いながら笑顔で送れるようにそれまで一緒に過ごして来たことを大切に心に留めていってほしいと思います。

二つ目は病気などで苦しんでいるのなら、その人にできるだけ笑顔を見せてあげて下さい。作り笑いのような顔ではなく自然に、苦しんでいる人を笑顔で励まし続けることが私達にできるたった一つのことだと思います。自分が苦しい時、相手も悲しそうな顔でこちらを見ているなら、よけい悲しく苦しく私ならなるので他の人も同じだと思います。だから、いっぱいいっぱい笑ってあげて下さい。そうすれば少しでも相手も楽になるかもしれません。

最後は、大切な人の死後何も後悔は無いと思えるように、今を生きることです。この想いは父を亡くしてから私が一番心の中で深く感じたことです。なぜなら、大切な人との関わりは現在も昔も未来も、同じように続いていくからです。もちろん大切な人を失った後も。現在は未来へ進むにつれて過去へと変わっていきます。未来、つまり大切な人を失ってからその人との関わりをもつことができます。過去は未来で思い出を語れます。未来ではその人と関わりをもった人々と共に語り合うことができます。そして何よりも現在はその人と直接語り合うことができます。そう私は思うから、だから私は父を亡くした後

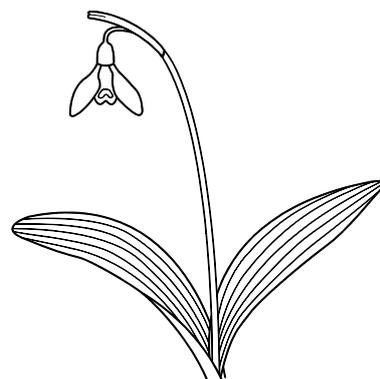
も前向きに歩みを止めずに進むことができます。父とはいつでも父が生きていた時の空気で同じ場所にいることができるから、だから私は止まろうとは思いません。これが現在を大切に生きようと思う理由です。

私は大切な人の本当の大切さはその人がいなくなって初めて分かるものなのだと感じます。私自身、全く後悔などしていないという訳ではありません。父に言いたかったこと、学校での楽しかった出来事、教えてほしかったこと、たくさんのことを話せず「ありがとう」の一言も言えずいかれてしまったと正直本当に後悔しています。だからこそ、このことを教訓に他の人にもこのことを伝え、私と同じような後悔をしないようにたくさんの方々に伝えていければと思います。大切な人の本当の大切さを理解できたなら、大切な人と共に過ごす時間を大切に心に留めてゆこうと思うことができるに違いありません。

それから今亡き父へ想うこと伝えたいことを言葉にしたいと思いません。

父さんへ。父さんが亡くなってからいろいろバタバタしたけどあれから一年、家族みんな元気にしてるよ。中学に入って今は二年生になったよ。友達もいっぱいできたし、風邪もぜんぜんひいてないから父さんが心配することは何も無いから、父さんは安心して寝てるだけでいいからね。それから今までありがとう。わがままも聞いてくれて、してほしいこともしてくれて、いろんなめいわくをかけたけど、いつ

もニコニコ笑ってゆるしてくれて、本当にありがとう。これを伝えた今の私に怖いものなんか無いから。だから、これで最後です。ありがとう、さよなら、お父さん。



●部活動や学校外活動
美術部・保健委員

●好きな科目
音楽・体育

●好きなことや好きなもの
音楽鑑賞・読書

●将来の夢
音楽関係の仕事につきたい

※優良賞※

ことばが社会を明るくする



伊賀市立柘植中学校

三年 なか 中 にし 西 はる 温 み 美

今年の三月十一日に起きた、東日本大震災。三重県に居た私には強い揺れを感じなかったので、震度七という大地震がどれほどのものか実感として分かりませんでした。

しかし、震災から約半年たった今、未だに避難所生活をしている方々が多数おられるのが、テレビや新聞を見ていて解ります。生き残った方の中には、家族を失い、自分一人だけが生き残ったという方もいます。また、被災地では、食料などの日常生活に必要な物が不足しているため、たくさんの人々が困っていたという状況もありました。

そこで、私も少しでも被災地の人のためになればと募金活動に協力しています。また、わずかですが、節電にも協力しています。私は、

今の自分に出来ることを精一杯やるのが大切だと思っています。

震災直後、テレビのコマーシャルで「つながろう日本」や「つながろう日本」などの、日本が一つになるべきであることを伝えていました。

東北地方の人々にとっては申し訳ありませんが、私は、この非常事態をプラスに考えてみようと思いました。なぜかというところ、自分の生活を見直したり、考えたり、変えたりするときだと思ったからです。

今の私達はなに不自由なく育っています。それでいて、そのありがたさに何も気づいていなかったのです。

衣食住の「衣」でいえば、季節にあったものを着せてもらい、汚れたものや破れたものなど身につけていないのです。「食」でいえば、ほしい物を口にでき、あれ嫌い、これ嫌いと言っているのです。「住」でいえば、自分の部屋を与えてもらい、テレビも家にも何台もあるとか。この恵まれた毎日を、私達は、あたり前と思っていた矢先の出来事でした。

こんな時にテレビから流れるコマーシャルは、心に残るものとなりました。「こころ」はだれにも見えないけれど「こころづかい」は見える。電車で妊婦さんに席をゆずれなかった男子高校生が、階段を上るおばあさんの背中にそっと手をそえる場面。私の家でも、このコマーシャルをそれぞれの気持ちで見っていました。祖母は、高校生の兄に「健文もあんな親切できるか。」

と、言いました。勇気がいるというものの、兄も

「うん。」

と、言いました。私も弟も、多分その気持ちになれると思います。今まで見て見ぬふりをしていた数々のことを思い出します。

「こんにちは」「ありがとう」「こんばんは」「さようなら」「まほうのことばでたのしいなかがまが……。」「おはよう」「いただきます」「ただいま」すてきなことばでゆかいなかがまが……。

震災のテレビで数々のことを教えられたコマージュの挨拶ことばです。なんと簡単なことば、なんと当たり前のことば。それらを、私達は、忘れていたのではないのでしょうか。

「温美の声は小さすぎるので、人に聞こえやんかったら、言っていないのと同じやで。」

と祖母からよく言われます。挨拶ことばが社会を明るくするということを心に言い聞かせて、私は行動しようと思います。

現代の買物は、一言もことばに出さなくても、品物を買うことが出来るのです。陳列された物の中から欲しい物を探し、お金を払って行く。こんな生活がだんだん心の通じ合うことばをなくしていったのではないのでしょうか。私は、コマージュで教えられた事を心に刻み、被災者の皆さんの痛みを自分の痛みと感じ、与えられた全ての事に感謝しようと思います。

先日、家族で外食しました。レジでお金を払う時に、私は大きな声で

「ごちそうさまでした。」

と、言いました。お店の人はとても嬉しそうな顔。私も、とても明るい気持ちになりました。

「挨拶のことば」こそ、社会を明るくする第一歩だと思います。そしてこの大震災を決して無駄にしてはならないと思います。

●部活動や学校外活動

バレーボール部

●好きな科目

英語

●好きなことや好きなもの

シヨッピン

●将来の夢

司書

地域優秀賞一覧 (31名)

学校名	学年	学年	名前	タイトル
四日市市立笹川中学校	2	女	坂下 初音	百人一首から考える身近な自然の大切さ
四日市市立笹川中学校	2	男	古川 湧也	日中関係から思った事
四日市市立南中学校	3	男	川口 竜汰	僕の祖母
四日市市立三重平中学校	3	女	伊藤 乃愛	「動物のいのち」
四日市市立三重平中学校	3	男	杉田 拓己	幸せリレーを始めよう
暁中学校	3	男	安藤 流布人	反抗期は心の成長期
暁中学校	3	女	児玉 花梨	今を生きる
鈴鹿市立千代崎中学校	3	女	佐藤 愛理	言葉の壁から見つけた友達
鈴鹿市立鈴峰中学校	2	女	安藤 舞	家族と私
津市立西郊中学校	3	女	鈴木 万穂	豊かな今
津市立久居東中学校	1	女	浜口 紗吏	今日を大切に
津市立久居東中学校	2	女	服部 里菜	私たちに出来ること
津市立一志中学校	3	女	西村 董	私たちの原点とは
セントヨゼフ女子学園中学校	3	女	保世院 座林	本当の仲間とは何か
セントヨゼフ女子学園中学校	3	女	山本 幸穂	「仲間と自分」
松阪市立久保中学校	2	女	志内 梨紗	「障がい」に対する私の意見
伊勢市立沼木中学校	3	女	小倉 萌那	インターネットについて
伊勢市立沼木中学校	3	女	福村 真優	高齢者疑似体験を生かして
皇學館中学校	2	女	岩井 まどか	地球と歩む
大紀町立大宮中学校	3	女	東 那美	家族というありがたい存在
伊賀市立崇広中学校	1	女	箭川 華穂	つながり
日生学園附属中学校	1	男	平野 智也	みんなの心が少し変わったら
名張市立赤目中学校	3	女	宮崎 あゆみ	「死刑制度」
名張市立北中学校	1	女	歌川 琴未	今 私たちにできること
名張市立北中学校	3	女	中山 華	「あたりまえ」と思わない
尾鷲市立尾鷲中学校	2	女	南崎 理沙	出逢いによる成長
紀北町立紀北中学校	3	女	長井 野明	三月十一日
紀北町立潮南中学校	3	女	倉本 直美	戦争と平和
紀北町立三船中学校	3	女	まつなが 梨葉	姉の活動を通して感じたこと
熊野市立有馬中学校	2	女	笹之内 ゆき	学校に行く意味
紀宝町立矢湊中学校	3	男	玉置 星都	戦争のない幸せ

(順不同)

学校奨励賞一覧 (29校)

四日市市立塩浜中学校、四日市市立富洲原中学校、四日市市立富田中学校、四日市市立保々中学校
 四日市市立三重平中学校、四日市市立羽津中学校、暁中学校、四日市朝鮮初中級学校
 鈴鹿中学校、亀山市立亀山中学校、亀山市立関中学校、津市立久居東中学校
 津市立一志中学校、伊勢市立沼木中学校、皇學館中学校、大紀町立大宮中学校
 伊賀市立崇広中学校、伊賀市立緑ヶ丘中学校、伊賀市立柘植中学校、伊賀市立阿山中学校
 伊賀市立大山田中学校、日生学園附属中学校、名張市立名張中学校、名張市立赤目中学校
 名張市立桔梗が丘中学校、名張市立北中学校、名張市立南中学校、尾鷲市立輪内中学校
 熊野市立有馬中学校

(順不同)

❖❖❖ 講 評 ❖❖❖

審査委員長 三重県教育委員会小中学校教育部 室長 西 口 晶 子
にし ぐち あき こ

◆ 全体講評

本日は、「中学生のメッセージ2011」に県内六一校、九、五七〇点の作品の中から選ばれた十四人の皆さんに発表をしていただきました。皆さんの今日に至るまでのご努力と、本日の心温まるまた真摯な発表に對しまして、心からの拍手を送りたいと思います。

今年三月十一日に、「東日本大震災」が発生しました。「地震」だけでなく、「津波」さらには「原発事故」と、未曾有の大震災となり、お亡くなりになられた皆様のご冥福を心よりお祈り申し上げます。また、六ヶ月近く経った今でも、未だに行方不明の方々、あるいは仮設住宅や避難先で暮らしておられる方々等、たくさんの方が不安と不自由な中で暮らしておられます。

このような中で、中学生の皆さんが、今の日本の社会を鋭く「見つめ」、「感じ」、「考え」、そして周りの人々に「訴えていく」という「中学生のメッセージ2011」が開催されましたことは、たいへん意義深いことです。そしてまた、発表された内容は、中学生らしい鋭い感性で、「命」「絆」等、人々の生き方や社会の在り方等を追求したものが多く、会場で聴いてくださった方々に、皆さんの熱意や思いの伝わるすばらしいものばかりでした。

審査の結果、鈴鹿市立創徳中学校の王暉吉さんが最優秀賞に選ばれました。王さんは、昨年に続いての参加です。昨年は、小学校三年生の時に中国から来日し、言葉の通じない不安な気持ちや「国籍が違ふこと」で差別されるのはおかしい」と、多文化共生社会の中で私たち日本人が考えていかなければならない

ことを発表してくれました。今年は、自分は大々さんの人から守られている、その人たちに自分の気持ちを伝えたいという思いで、「感謝」をテーマに発表してくれました。これからも、日本と中国の架け橋となるよう、素晴らしい人生を歩んでください。

伊賀市立崇広中学校の吉本ゆかりさんは、日本とペルーという二つの国の文化の中で生活し苦労してきたこと、中学校の人権学習がきっかけとなり、二つの国の異なる文化の架け橋になって堂々と生きていきたいと考えたことを力強く話してくれました。多文化共生社会としての日本社会に必要な視点を訴える発表でした。

セントヨゼフ女子学園中学校の早川梓恩さんは、Let's volunteerというタイトルで、世界の貧困を救うためのボランティア活動の必要性と、自らも活動している内容を主張してくれました。「地球で起きている大きな問題を解決するのは、私たち一人ひとりの小さな行動である。」と、体験に基づく力強い発表でした。

松阪市立飯高東中学校の石上朝香さんは、「自動車整備士」になるという自分の将来の夢についての発表でした。自動車整備士という仕事は男性に多い職業ですが、技術と経験を積みながら自分を鍛え、また近所の人とも温かく話せるようなコミュニケーション力をもった整備士になりたいという夢を、是非か

なえてください。
 紀北町立三船中学校の工門万佑子さんは、陸上が得意で、大学に行つて勉強もしている四才年上のがんばりやお姉さんの生き方についての発表でした。

お姉さんとともに周りの人々の言動から、障がいをもった人もそうでない人もみんなが安心して暮らせるような社会になってほしいと、力強く訴えてくれました。

四日市市立大池中学校の宇佐美友紀さんは、総合学習の時間で行った介護施設での職場体験についての発表でした。介護の場に必要なことは、「明るい笑顔」と「優しいコミュニケーション」で「信頼関係」を築いていくこと。体験学習で学んだことを、今後の自分の生活に生かしていただく。

亀山市立関中学校の森元希さんは、お父さんの跡を継いで、「理容師になること」という自分の将来の夢についての発表でした。理容師は、人を笑顔で幸せにできる「天使の職業」であると話す森元さん。明るい理容界の未来をめざして頑張っていくという強い決意を大切に、「夢」を実現されることを祈っています。

伊勢市立沼木中学校の羽根諒悟さんは、新聞記事や自分の家族から聞いた話をもとに、「頑張って」という言葉の持つ意味や使い方について考えさせる主張でした。「その人の悲しさや苦しさに触れ、とにかく話を聴く」ということも大切ではないか、「頑張って」という言葉の使い方についてもっと考えようと訴えてくれました。

名張市立南中学校の塩田桃葉さんは、自分の食物アレルギーについて、アナフィラキシーショックを起こした時の体験を交えての発表でした。苦しかった時にお母さんの「神様からの試練」という言葉で、次に向かって生きていこうと考え、将来はアレルギーのある子どもが安心して過ごせる保育士になると、力強く語ってくれました。

鈴鹿市立鈴峰中学校の村田知樹さんは、インターネット上の掲示板に書き込まれる他人への誹謗中傷について警鐘を鳴らす主張でした。軽い気持ちで発信した言葉が、ネット社会では大きな刃となり人を傷つけていく恐ろしさがあることを重大に受け止め、インターネット社会でのモラルの在り方について訴え

てくれました。

鈴鹿中学校の奥山雄貴さんは、「改正臓器移植法について」、臓器を提供する側、提供される側の両方の立場から考えて主張してくれました。「重大な決断」のためにも十分な医療が尽くされること、自分がドナーカードを持てる年齢になって考えたことなど、「臓器移植」と「命」について深く考えた主張でした。

名張市立北中学校の高尾美智子さんは、大好きなお父さんの死から想うことを発表してくれました。大切な人との別れは予想できません。だから、今の一秒一秒を大切に過ごしてほしいと話します。前向きに歩き続けている今、このステージでお父さんに伝えた「ありがとう」の言葉を胸に、今後の人生を力強く生きてください。

四日市市立富田中学校の佐藤亜美さんは、いじめが原因で自殺をした小学生のニュースから考えたこと、行動したことの発表でした。気持ちを声に出すこと、気付いているのに何もしていない自分が恐くなったこと等を素直に発表してくれました。あなたの行動がこれからの社会を救います。今後大いに期待する発表でした。

伊賀市立柘植中学校の中西温美さんは、「ことはが社会を明るくする」というテーマで、特に挨拶の言葉に注目して発表しました。「こんにちは」「ありがとう」など簡単な言葉こそが社会を明るくする第一歩であると訴え、自分のできることを精一杯することが大切であると主張してくれました。

今年の大会では、「ありがとう」「頑張って」「神様からの試練」「感謝」等、「言葉」を意識した主張が多く見受けられました。「言葉」は、時に人を元気づけ、勇気づける素晴らしいものとなりますが、あるときは、人を傷つける刃にもなります。十四人の皆さんの主張を聴いて、今一度「言葉」のもつ力を考える機会となりました。

さて、冒頭に東日本大震災の話をしました。その震災にあった皆さんと同

じ中学生の話を一つします。仙台市にある中学校の吹奏楽・合唱部は、全国大会でいつも優秀な成績を収める中学校でした。しかし三月十一日にあの東日本大震災が起きます。出場するはずだった全国大会へは出られず、練習している学校は避難所となります。生徒の皆さんは、震災で被災されたたくさんの方々に対して、自分たちができることとはなにかと考えます。そして、震災で全国大会は出場できないけれど、避難されている方々に大好きな音楽をプレゼントしようと、全国大会が開かれる当日、避難所で演奏会を開きました。その時に歌った曲の中に「あすという日が」（作詞山本瓊子 作曲八木澤教司）があります。

♪ いま 生きていること 一生懸命生きること

なんてすばらしい

あすという日があるかぎり しあわせを信じて

あすという日がくるかぎり 自分を信じて ♪

この歌でたくさんの人々が勇気づけられたと、聞きました。

みなさんもこの歌詞のように、自分を信じて、しあわせを信じて一生懸命生きてください。中学生の皆さんの一生懸命さが、これからの社会を明るくしてくれるはずです。

明日から学校が始まるという人もいることでしょう。九月は目の前です。皆さんが今日の体験をもとに、今後、それぞれの学校で大いに活躍されることを、またご自分の主張された夢の実現に向けて努力されることを期待いたしまして講評といたします。ありがとうございます。

◆最優秀賞講評

中学生のメッセージ2011で、鈴鹿市立創徳中学校の王暉吉さんが、題名「感謝」で最優秀賞を受賞されました。

王さんの発表は、「周りの人たちに対する感謝の気持ちを忘れてはいけな

い。」と話すお母さんの言葉から始まります。

小学校三年生の時に、中国から日本に来た王さんは、中国語の話せる人が誰もいない日本の小学校に入ります。当分友だちもできないかもしれないという不安の中でスタートした学校生活でしたが、初日から多くの人が笑顔で声をかけてくれます。王さんもだんだん日本語が話せるようになり、やがて自分のそばにはいつも誰かがいてくれる小学校時代を送ります。

中学校に入ると、また不安な気持ちが芽生えます。知らない人がたくさんいる新しい環境で周りの人とうまくやれるのか、また自分の国籍のことも不安だったと言います。でも、中学校でも王さんは友だちに支えられます。「私たちが暉吉のことを守る。一人じゃないから。」と勇気をくれたそうです。

これから中学校卒業後は、みんな違う道を進みます。卒業後の進路についても不安があるし、さらに、自分の国籍にも不安があるけれど、今まで六年間自分を支えてくれた人がくれた「強さ」「明るさ」「笑顔」を忘れずに、これからも信頼しあえる仲間を作っていきたいと主張しています。

日本に来て得たものは「人は一人じゃ生きていけない。」ということ、「今のは、周りの人によって支えられ、今がある。」ということ、これからは「常に感謝の気持ちを忘れずに生きていく。」ということをはっきりとした口調で主張してくれました。

全体を通じて、日本と中国という二つの国で生活し、感じたり考えたりしたこと、また苦労しながらも得た「感謝」という言葉の重みを、体験に基づき落ち着いた口調で丁寧に話してくれたことが、聴いている人の心に届き、共感を与え、今回の受賞となりました。おめでと〜うございます。

中学生のメッセージ 2011（第 33 回少年の主張三重県大会）実施要項

1. 目的

「中学生のメッセージ」は、中学生が日ごろ感じていることや考えていることを広く県民に訴えることにより、青少年が自分の生き方や社会との関わりを考え、また、青少年に対する県民の理解・関心を深めることを目的として実施します。

2. 主催

財団法人三重こどもわかもの育成財団

3. 共催

三重県

4. 協力

名張市青少年育成市民会議・伊賀市青少年育成市民連絡会議

5. 後援

三重県教育委員会・名張市教育委員会・伊賀市教育委員会・三重県小中学校長会・三重県 PTA 連合会
三重県私学協会・三重県教職員組合・NHK 津放送局・三重テレビ放送株式会社

6. 大会

期日 平成 23 年 8 月 28 日（日）

場所 アドバンスコープ ADS ホール（名張市青少年センター）

名張市松崎町 1325-1

7. 応募資格

県内の国公立中学校（特別支援学校中学部を含む）の生徒及び、それに相応する学籍又は年齢にある方。
※国籍は問わないが、日本語で発表できること。また、平成 22 年度在籍の 3 年生は応募できません。

8. 応募内容

- ① 社会や世界に向けての意見、未来への希望や提案など。
- ② 家庭、学校生活、社会（地域活動）及び、身の回りや友だちとの関わりなど。
- ③ テレビや新聞などで報道されている少年の問題行動、大人や社会のさまざまな出来事に対する意見や感想、提言など。

9. 応募方法

(1) 1 人 1 点とし、未発表のものに限ります。但し、募集に先立ち取り組まれた作品や青少年育成市町民会議（以下、市町民会議という）等が主催する同様の大会において発表された作品は提出できます。

(2) 原稿用紙記入方法

- ・ A4 版 400 字詰め原稿用紙 3 枚半以上 4 枚半以下で縦書きに清書してください。枚数不足や枚数超過については、審査対象外となるのでご注意ください。なお、大会での発表時間は 5 分程度となります。
- ・ コピーではなく、本人直筆による原本（ワープロ不可・但し障がい等による場合は可）にしてください。
- ・ 原稿用紙には HB 以上の鉛筆ではっきり濃く記入してください。（審査のとき、コピーをするため、濃さについては厳守してください。）
- ・ 原則的に 1 行目にタイトル、2 行目に県名・学校名・学年・名前、3 行目に発表者の名前、4 行目以降に本文という書式にしてください。但し、学校名等が長い場合はこの限りではありません。
- ・ 原稿用紙（様式）は別紙 1 を参照してください。コピーをして記入していただくことも可能です。

(3) 各学校等において 3 点以内に選考し、応募作品一覧（別紙 2）を添付のうえ、下記提出先に提出してください。

(4) 提出先・提出期限

- ・ 各中学校等は、6 月 10 日（金）までに該当地域の市町民会議に提出してください。市町民会議は作品を取りまとめ、6 月 15 日（水）までに財団法人三重こどもわかもの育成財団へ提出してください。
- ・ 市町民会議の連絡先については、別紙 3 を参照してください。

10. 中央審査会

中央審査会は、青少年育成関係者、学識経験者、財団法人三重こどもわかもの育成財団等で構成し、提出された作品の中から「中学生のメッセージ」で発表する 14 人と地域優秀者 20 人程度を選考します。なお、発表者へは 7 月上旬に連絡します。

1.1. 「中学生のメッセージ」における発表及び審査

(1) 大会発表者は「中学生のメッセージ」において、自らの作文をもとに発表します。

＜発表方法について＞

三重県大会では、作文をもとにした発表方法に加えて、パフォーマンス（例えば、写真を使用したパネル説明や液晶プロジェクター等を使って映像を写し出す発表や服装は自由とし、小道具を使うなど）を取り入れてもよいこととします。なお、機材等の関係がありますので、詳しくはお問い合わせください。

(2) 大会当日、青少年育成関係者、学識経験者、財団法人三重こどもわかもの育成財団等で構成する審査委員会が審査を行い、各賞を決定します。

(3) 審査基準は以下の通りです。

【論旨】

- ① 鋭い感性で、新鮮な主張であるか。(中学生らしさ)
- ② 新しい情報や視点があるか。
- ③ 個人の体験にとどまらず、一般性・社会性があるか。
- ④ 提案や提言を実現・実践する意欲が感じられるか。
- ⑤ 論旨が一貫し、構成がしっかりしているか。

【論調】

- ① 主張の内容が共感と感銘を与えているか。
- ② 説得力のある話し方であるか。
- ③ 話し振りに熱意と迫力があるか。

【態度】

- ① 聴衆をよく見て堂々と落ち着いて話せたか。
- ② 聴衆との間合いを意識しながら話せたか。

1.2. 「少年の主張全国大会」への推薦

「中学生のメッセージ」の最優秀者は、独立行政法人国立青少年教育振興機構が主催する「少年の主張全国大会」の出場候補者（中部・近畿ブロック審査応募作品）として推薦します。ブロック代表者（各ブロック 2～3 人）に選ばれた場合は、東京で開催される「少年の主張全国大会」において発表していただきます。

1.3. 表彰

県大会の審査委員会で審査のうえ、「最優秀賞」（1 人）、「優秀賞」（3 人）、「優良賞」（10 人）を決定し、賞状と副賞を贈呈します。また、大会発表者以外の地域優秀者には「地域優秀賞」として、賞状と副賞を贈呈します。また、積極的に応募に取り組んでいただいた学校（全校生徒の 50%以上とする）に「学校奨励賞」として賞状と副賞を贈呈します。なお、作品応募者全員には、参加賞を贈呈します。

1.4. 問い合わせ先

財団法人三重こどもわかもの育成財団

〒515-0054 松阪市立野町 1291 みえこどもの城内

TEL : 0598-22-4911 FAX : 0598-23-7792 E-mail : ikusei@mie-cc.or.jp

1.5. その他

- (1) 応募作品の返却はしないのでコピーをして保管してください。
- (2) 大会前、財団法人三重こどもわかもの育成財団ホームページにおいて、発表者の紹介（学校名・学年・性別・名前・タイトル）をしますのでご了承ください。同様に、大会後、大会の結果、発表作品（最優秀賞）、発表者・入賞者の紹介（学校名・学年・性別・名前・タイトル）をしますのでご了承ください。
- (3) 大会後、大会発表者の発表作品や写真を掲載した発表作品集を作成し、県内中学校や関係機関等に配付します。その他、広報誌等にも掲載することがありますのでご了承ください。
- (4) 当事業に対して協賛いただける企業・団体を募集します。協賛いただいた企業・団体には広報誌、作品集等で名称を紹介させていただきます。

📎📎📎 審査基準 📎📎📎

【論旨】

- ① 鋭い感性で、新鮮な主張であるか。（中学生らしさ）
- ② 新しい情報や視点があるか。
- ③ 個人の体験にとどまらず、一般性・社会性があるか。
- ④ 提案や提言を実現・実践する意欲が感じられるか。
- ⑤ 論旨が一貫し、構成がしっかりしているか。

【論調】

- ① 主張の内容が共感と感銘を与えているか。
- ② 説得力のある話し方であるか。
- ③ 話し振りに熱意と迫力があるか。

【態度】

- ① 聴衆をよく見て堂々と落ち着いて話せたか。
- ② 聴衆との間合いを意識しながら話せたか。

📎📎📎 審査委員一覧 📎📎📎

名 前	所 属
西 口 晶 子	三重県教育委員会小中学校教育室 室長 【審査委員長】
堀 切 幹 也	三重県健康福祉部こども局こども未来室 主幹
藤 本 幸 生	三重県小中学校長会 名張市立赤目中学校 校長
作 本 真寿美	三重県PTA連合会 副会長
大 井 邦 子	三重県私学協会 三重中学校 教諭
大 西 義 人	三重県教職員組合 中央執行副委員長
高 田 正	名張市青少年育成市民会議 会長
八 尾 光 祐	伊賀市青少年育成市民連絡会議 会長
鳥 居 芳 幸	財団法人三重こどもわかもの育成財団 副理事長

（順不同・敬称略）



▲審査会の様子

✎✎✎ 応募数・審査経過 ✎✎✎

ブロック	参加校数 (取り組まれた学校)	参加者数 (作文を書いた人数)	地域提出数 (学校選抜後)	地域優秀作品数 (財団選抜後)	大会発表者数 (財団選抜後)
北勢	24	4,495	58	15	6
津	9	909	25	7	1
松阪	3	33	6	2	1
南勢志摩	6	359	17	5	1
伊賀	11	3,211	32	9	4
紀北	6	319	14	5	1
紀南	2	244	6	2	0
計	61	9,570	158	45	14



中学生のメッセージ2011の会場となった
アドバンスコープ ADS ホール



大会写真



▲名張市教育委員会
上島 和久 教育長による歓迎あいさつ



▲財団法人三重子どもわかもの育成財団
竹林 武一 理事長による開会あいさつ



<それぞれの主張を訴える発表者>



▲司会者の様子



▲熱心に聴き入る観客の様子



▲発表者控室の様子



▲受付の様子



▲西口審査委員長の講評



▲名張市立名張中学校オーケストラ部・名張市立北中学校ウインドアンサンブル部の合同編成による演奏会



▲最優秀賞を受賞した王皞吉さん



▲表彰式の様子



▲全国大会での王皞吉さんの発表の様子



▲運営協力中学生の皆さん

【少年の主張全国大会くわたし的主張2011】 内閣総理大臣賞

震災を乗り越えて

福島県いわき市立勿来第二中学校なこそ

三年 瓜う 生りゆう 健けん 吾ご

「お父さーん、お父さーん。」

必死に叫ぶ僕からまるで父を遠ざけるかの様に黒い雨が降り出し、目が覚めた。こんな風に父を呼んだのはいつ以来だろう。止まない地震、真っ暗な空、工場の爆発。まるで映画の中にある様な状況下で発令された緊急事態宣言。すぐさま僕の脳裏には原発から三キロ圏内に単身赴任している父の顔が浮かんだ。僕は無意識に受話器を取り、つながるはずのない父の番号を押さずにはいらなかった。何度も、何度も。そして放射能の不安が今にも僕を押しつぶそうとしていた。

父と会えたのは二日後の夜中だった。原発が爆発する中、寝食も忘れて父は生徒達を避難させていたのだ。家族を気にかける暇もなく、電話の対応に追われる父の様子を目の当たりにし、僕の心の中は、やり場のない怒りにも似た感情が沸き始めていた。そして、「なぜ電話一本くれなかったのか。」と父を責めた。本当はもっと別な事を言いたかったが、生真面目な父が僕には苦手で他に言葉が出なかったのだ。案の定、父から返ってきた言葉は「大人になればわかる。」の一言だった。

そんな僕に母が一枚の新聞記事を見せてくれた。見出しには「生徒の相談に追われる双葉高校」。隣には受話器を握った父の姿があった。住み慣れた土地や家族を突然奪われた生徒たちの不安は計り知れない程のものであろう。でも僕にとって父はただ一人なんだ。父の行動を理解しようとしても、片や心の中で理解できない自分がいた。

津波と原発事故は僕にとって他人事ではなかった。避難したり、家や車を流されたりした友達が沢山いたからだ。それに、もし時間

がずれていたら僕達陸上部の海岸練習中に津波に会い、僕が命を落としていたかもしれないのだ。生と死を分けたこの一瞬が単なる偶然でしかない事が、命の儚さと無情さを僕に知らしめた。

原発が二度目の爆発を起こした事をきっかけに僕達は家族でこの地に留まるか否かを話し合った。両親は仕事があり留まらざるを得ないが、祖父母は住み慣れた土地を離れたくなかった。家族全員の思いが違っていた時のことだった。突然、普段無口な父が祖父に頭を下げ、残っているガソリンで行ける所まで僕を連れて逃げてくれるように頼み始めた。それでも首を縦に振らない祖父に、父が一語一語かみしめるかのようにゆっくりと話し始めた。

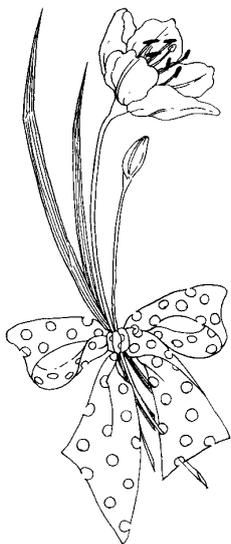
日本中の名医を訪ね、体外受精でやっと僕がこの世に生まれた事、母が副作用で命の危険にさらされながら僕を生み、今もその後遺症に苦しんでいる事を、僕はこの時初めて知った。

今まで自分自身の命について深く考えたことなかった僕は、自分の命がどれほど重いものかを初めて感じた。と同時に、自分だけでなく、一人一人の命が同じように重いことも。

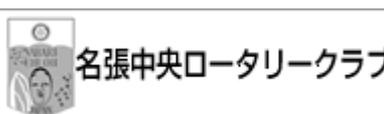
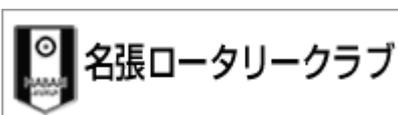
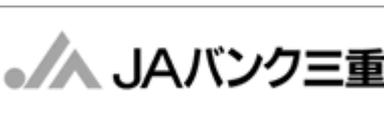
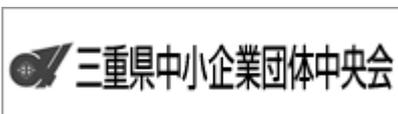
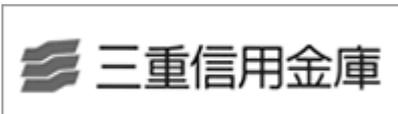
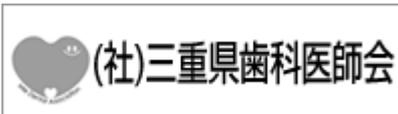
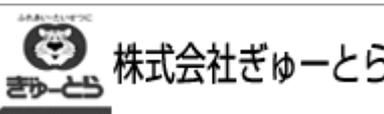
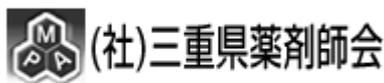
僕は先日父に発した言葉を後悔した。あの言葉を父はどんな気持ちで受け止めたのだろう。僕には目の前の自分しか見えていなかった。父の行動は、何としてでも尊い命を救おうとする強い心の表れ

だったのだ。それが僕の命であるか、僕以外の命かが違うだけで。

未だ原発事故は収束しないが今回の父の生き様は僕に多くの事を気づかせてくれた。両親の無償の愛と、時にはそれに代えてもやらねばならない使命が大人にはあるという事を。僕には高校進学という人生最初の岐路に立った今、抱き始めた夢がある。それは人命を救助する医師への道だ。今や世界共通語となったフクシマは、大切な家族や故郷を失った悲しみと見えない放射能への不安でいっぱいだ。福島に生まれ育ち、命の重さ、儚さに触れた自分だからこそできる事、それは健康被害に不安を抱く福島の人々に寄り添い、最前線で命に向き合うことではないだろうか。なぜなら、父が身をもって教えてくれたように、人命は地球よりも重いものだから。



協賛企業・団体紹介 ※順不同



本大会の開催にあたり、ご協賛いただきありがとうございました。

中学生のメッセージ 2011
(第 33 回少年の主張三重県大会)
発表作品集

平成 24 年 1 月発行

財団法人三重こどもわかもの育成財団

〒515-0054

三重県松阪市立野町 1291 みえこどもの城内

TEL 0598-22-4911

FAX 0598-23-7792

E-mail ikusei@mie-cc.or.jp

毎月第三日曜日は『家庭の日』

家族のふれあいを大切にしましょう！

家庭は、青少年にとって最も大切な生活の基盤であり健全育成の出発点です。家族みんなが話し合い、家族みんなで楽しみ合い、家族みんなで力を出し合うなかで、家族相互の精神的結合を深め、健康で明るい家庭を築きましょう。

「家庭の日」には、家の仕事や食卓をかこみながら地域の行事や、ボランティア活動に汗を流しながら海や山へ出かけ、自然とふれあいながら家族の対話を深めましょう。

●三重県子ども局 HP より

[<http://www.pref.mie.jp/D1KODOMO/kodomom/seisyounenikusei/kateinohi.htm>]

平成23年度『家庭の日』絵画・ポスター展

< 最優秀賞受賞作品 >



◆児童の部
「家庭の日」

まつもと あいり
松阪市立第一小学校 6年 松本 愛里さん



◆生徒の部
「みんなですごそう家庭の日」

おかむら れな
松阪市立殿町中学校 3年 岡村 玲奈さん

「三重県子ども条例」ができました

子どもは、「社会の宝」、私たちの「未来」そのものです。子どもが健やかに、豊かに育まれることは、社会全体の願いです。そこで、三重県では、子どもが健やかに育つことのできる地域社会の実現をめざして、平成23年4月1日から「三重県子ども条例」を施行しました。

三重県は、これから、この条例の理念を県民の皆さんと共有し、さまざまな活動に取り組んでいきます。

●基本理念（第3条）

- 子どもを権利の主体として尊重する
- 子どもの最善の利益を尊重する
- 子どもの力を信頼する



●夢ロケット

夢と希望をのせて…

財団法人三重県わかもの育成財団は、三重県より「子ども条例啓発イベント業務」を受託し、応援しています。そこで、『～未来をつくる子どもの力支える大人の思い～』を象徴する“夢ロケット”（写真）をつくりました。本年度は、県の主催するイベント会場に巡回展示いたします。